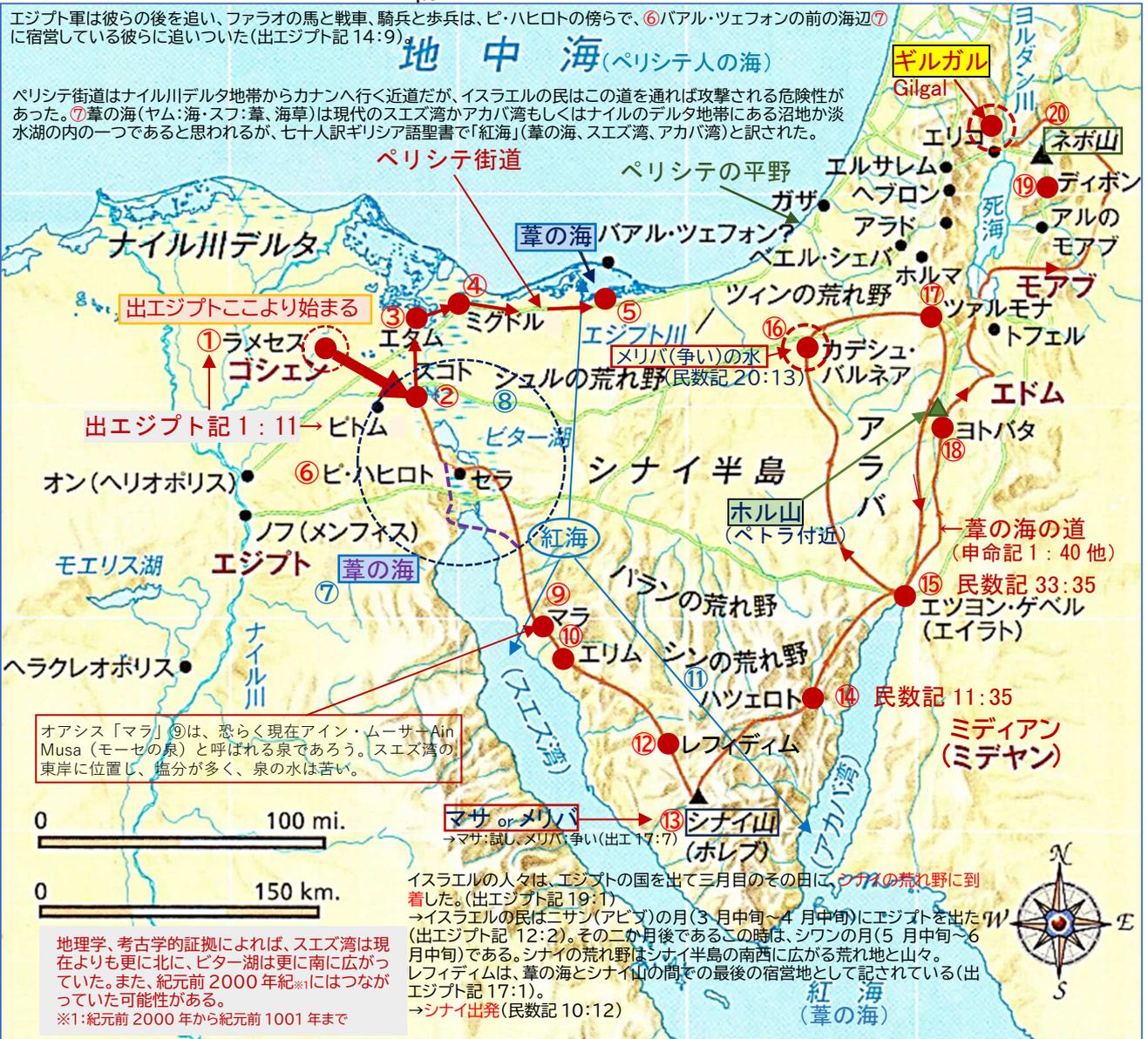


出エジプトの道

Exo 15:4 Pharaoh's chariots and his host hath he cast into the sea: his chosen captains also are drowned in the Red sea. → Yam=海、Suph=葦、海草

קַיִם cūwph, soof; 葦reed、特にパピルス:旗、赤(海)、雑草。



①ラメセス

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 5 / 聖句等の総数 33250 (ラメセス)5個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: ラメセス]
K 創世記	47:11 ヨセフはファラオが命じたように、父と兄弟たちの住まいを定め、エジプトの国に所有地を与えた。そこは、ラメセス地方の最も良い土地であった。 →ラメセス地方はナイル川デルタ地帯北東部のゴシェンにあった。ラメセスは、ヨセフの時代の後に長く支配したエジプトの王ラメセス二世(在位:BC1279-1212年頃)にちなんで名付けられた。	
K 出エジプト記	1:11 エジプト人はそこで、イスラエルの人々の上に強制労働の監督を置き、重労働を課して虐待した。イスラエルの人々はファラオの物資貯蔵の町、ピトムとラメセスを建設した。 →ラメセス二世※	
K 出エジプト記	12:37 イスラエルの人々はラメセスからスコトに向けて出発した。一行は、妻子を別にして、壮年男子だけでおよそ六十万であった。 BC1446年(早期説)	民数記1:46=60万3550人
K 民数記	33:3 イスラエルの人々は、第一の月の十五日にラメセスを出発した。すなわち、過越の翌日、すべてのエジプト人の目の前を意気揚々と出て行った。 →アビブ(ニサン):3月中~4月中旬	
K 民数記	33:5 イスラエルの人々はラメセスを出発して、スコトに宿営し、	

※早期説(出エジプトの時期:BC1446)に立つと、ファラオは「トトメス 3 世」(前 1479-1425 頃)と考えられる。

⑧各聖句は、地名を基準にリストアップしているため、重複している聖句が多数あります。

②スコト

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 4 / 聖句等の総数 33250 <スコト>4個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: スコト]
K 出エジプト記	12:37 イスラエルの人々はラメセスからスコトに向けて出発した。一行は、妻子を別にして、壮年男子だけでおよそ六十万 人であった。	
K 出エジプト記	13:20 <u>一行はスコトから旅立って、荒れ野の端のエタムに宿営した。</u>	
K 民数記	33:5 イスラエルの人々はラメセスを出発して、スコトに宿営し、	
K 民数記	33:6 スコトを出発して、荒れ野の端にあるエタムに宿営した。	

③エタム

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 4 / 聖句等の総数 33250 <エタム>4個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: エタム]
K 出エジプト記	13:20 <u>一行はスコトから旅立って、荒れ野の端のエタムに宿営した。</u>	
K 民数記	33:6 スコトを出発して、荒れ野の端にあるエタムに宿営した。	
K 民数記	33:7 <u>エタムを出発し、バアル・ツェフオンの前にあるピ・ハヒロの方に引き返し、ミグドルの前で宿営した。</u>	
K 民数記	33:8 <u>彼らはピ・ハヒロを出発し、海の中を通過して荒れ野に入り、エタムの荒れ野を三日間旅して、マラに宿営し、</u>	

④ミグドル

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 2 / 聖句等の総数 33250 <ミグドル>2個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: ミグドル]
K 出エジプト記	14:2 「イスラエルの人々に、引き返してミグドルと海との間のピ・ハヒロの手前で宿営するよう命じなさい。バアル・ツェ フオンの前に、それに面して、海辺に宿営するのだ。	
K 民数記	33:7 <u>エタムを出発し、バアル・ツェフオンの前にあるピ・ハヒロの方に引き返し、ミグドルの前で宿営した。</u>	

⑤バアル・ツェフオン

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 3 / 聖句等の総数 33250 <バアル・ツェフオン>3個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: バアル・ツェフオン]
K 出エジプト記	14:2 「イスラエルの人々に、引き返してミグドルと海との間のピ・ハヒロの手前で宿営するよう命じなさい。バアル・ツェ フオンの前に、それに面して、海辺に宿営するのだ。	
K 出エジプト記	14:9 エジプト軍は彼らの後を追ひ、ファラオの馬と戦車、騎兵と歩兵は、ピ・ハヒロの傍らで、バアル・ツェフオンの前の 海辺に宿営している彼らに追いついた。	
K 民数記	33:7 エタムを出発し、バアル・ツェフオンの前にあるピ・ハヒロの方に引き返し、ミグドルの前で宿営した。	

⑥ピ・ハヒロト

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 4 / 聖句等の総数 33250 (ピ・ハヒロト)4個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: ピ・ハヒロト]
K 出エジプト記	14:2「イスラエルの人々に、引き返してミグドルと海との間のピ・ハヒロトの手前で宿営するよう命じなさい。バアル・ツェフォンの前に、それに面して、 <u>海辺に宿営するのだ。</u> →葦の海(ヤム・スフ)	
K 出エジプト記	14:9 エジプト軍は彼らの後を追い、ファラオの馬と戦車、騎兵と歩兵は、ピ・ハヒロトの傍らで、バアル・ツェフォンの前の海辺に宿営している彼らに追いついた。	
K 民数記	33:7 エタムを出発し、バアル・ツェフォンの前にあるピ・ハヒロトの方に引き返し、ミグドルの前で宿営した。	
K 民数記	33:8 彼らはピ・ハヒロトを出発し、海の中を歩いて荒れ野に入り、エタムの荒れ野を三日間旅して、マラに宿営し、	

⑦葦の海 ヘブライ語で「ヤム(海)・フス(葦、水草)」で、現代の**スエズ湾**か、**アカバ湾**、または**ナイルのデルタ地帯東部の湿地帯**の内の一つと考えられる。七十人訳ギリシア語聖書(BC200年頃)において、「葦の海」は「紅海」と訳された。スエズ湾とアカバ湾を含む全領域が当時は紅海と呼ばれていた。→**葦の海の奇跡** 出エジプト13:18a 神は民を、**葦の海**に通じる荒れ野の道に迂回させられた。出エジプト記 14:21~22 モーセが手を海に向かって差し伸べると、**主は夜もすがら激しい東風をもって海を押し返されたので、海は乾いた地になり、水は分かれた。**22 イスラエルの人々は**海**の中の乾いた所を進んで行き、水は彼らの右と左に壁のようになった。

⑧シュルの荒れ野 (出エジプト記 15:22 のみに登場する)

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 14 / 聖句等の総数 33250 (葦の海)14個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: 葦の海]
K 出エジプト記	13:18 神は民を、葦の海に通じる荒れ野の道に迂回させられた。イスラエルの人々は、隊伍を整えてエジプトの国から上った。	
K 出エジプト記	15:4 主はファラオの戦車と軍勢を海に投げ込み／えり抜きの戦士は 葦の海 に沈んだ。 Pharaoh's chariots and his host hath he cast into the sea: his chosen captains also are drowned in the Red sea.	
K 出エジプト記	15:22 モーセはイスラエルを、葦の海から旅立たせた。彼らはシュルの荒れ野に向かって、荒れ野を三日の間進んだが、水を得なかった。	
K 民数記	14:25 しかし、今はアマレク人とカナン人とがあの平野に住んでいるから、向きを変え、明日、葦の海の道を通して、荒れ野に向けて出発しなさい。」	
K 民数記	21:4 彼らはホル山を旅立ち、エドムの領土を迂回し、葦の海の道を通って行った。しかし、民は途中で耐えきれなくなつて、	
K 民数記	33:10 彼らはエリムを出発し、葦の海のほとりに宿営し、	
K 民数記	33:11 葦の海を出発して、シンの荒れ野に宿営し、	
K 申命記	2:1 我々は向きを変え、主がわたしに告げられたように、葦の海の道を通って荒れ野に向かって行き、長い間セイルの山地を巡った。	
K 申命記	11:4 エジプト軍、その馬と戦車に対してなされたこと、すなわち彼らがあなたたちを追撃して来たとき、主が彼らの上に葦の海の水を溢れさせて滅ぼし、今日に至っていること、	
K ヨシュア記	2:10 あなたたちがエジプトを出たとき、あなたたちのために、主が葦の海の水を干上がらせたことや、あなたたちがヨルダン川の向こうのアモリ人の二人の王に対してしたこと、すなわち、シホンとオグを滅ぼし尽くしたことを、わたしたちは聞いています。	
K ヨシュア記	4:23 あなたたちの神、主は、あなたたちが渡りきるまで、あなたたちのためにヨルダンの水を涸らしてくださった。それはちょうど、我々が葦の海を渡りきるまで、あなたたちの神、主が我々のために海の水を涸らしてくださったのと同じである。	
K ヨシュア記	24:6 わたしがあなたたちの先祖をエジプトから導き出し、彼らが葦の海に着くころ、エジプト軍は戦車と騎兵を差し向け、後を追って来た。	
K 士師記	11:16 イスラエルはエジプトから上って来たとき、荒れ野を歩いて葦の海まで来て、更にカデシュにたどりついた。	

⑨ マラ

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 3 / 聖句等の総数 33250 <マラ>4個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: マラ]
K 出エジプト記	15:23 マラに着いたが、その水は苦くて飲むことができなかった。こういうわけで、その名はマラ(苦い)と呼ばれた。	
K 民数記	33:8 彼らはピ・ハヒトを出発し、海の中を <u>通</u> って荒れ野に入り、エタムの荒れ野を三日間旅して、マラに宿営し、	
K 民数記	33:9 マラを出発して、エリムに行った。エリムには十二の泉と七十本のなつめやしがあり、そこに宿営した。	

⑩ エリム

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 4 / 聖句等の総数 33250 <エリム>6個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: エリム]
K 出エジプト記	15:27 彼らがエリムに着くと、そこには十二の泉があり、七十本のなつめやし <small>が</small> 茂っていた。その泉のほとりに彼らは宿営した。	
K 出エジプト記	16:1 イスラエルの人々の共同体全体はエリムを出発し、エリムとシナイとの間にあるシンの荒れ野に向かった。それはエジプトの国を出た年の第二の月の十五日であった。	
K 民数記	33:9 マラを出発して、エリムに行った。エリムには十二の泉と七十本のなつめやしがあり、そこに宿営した。	
K 民数記	33:10 彼らはエリムを出発し、葦の海のほとりに宿営し、	エリムは「大きな木々」を意味し、今日のアイン・ハワーラーの南、ワディ・ガランデルと呼ばれる小川と見なされている。 アイン・ハワーラーはスエズ湾の東岸に位置する。

⑪ シンの荒野

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 4 / 聖句等の総数 33250 <シンの荒野>4個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: シンの荒野]
K 出エジプト記	16:1 イスラエルの人々の共同体全体はエリムを出発し、エリムとシナイとの間にあるシンの荒れ野に向かった。それはエジプトの国を出た年の第二の月の十五日であった。	
K 出エジプト記	17:1 主の命令により、イスラエルの人々の共同体全体は、シンの荒れ野を出発し、旅程に従って進み、レフィディムに宿営したが、そこには民の飲み水がなかった。	
K 民数記	33:11 葦の海を出発して、シンの荒れ野に宿営し、	
K 民数記	33:12 シンの荒れ野を出発して、ドフカに宿営し、	

⑫ レフィディム

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 4 / 聖句等の総数 33250 <レフィディム>4個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: レフィディム]
K 出エジプト記	17:1 主の命令により、イスラエルの人々の共同体全体は、シンの荒れ野を出発し、旅程に従って進み、レフィディムに宿営したが、そこには民の飲み水がなかった。	
K 出エジプト記	19:2 彼らはレフィディムを出発して、シナイの荒れ野に着き、荒れ野に天幕を張った。イスラエルは、そこで、山に向かつて宿営した。	
K 民数記	33:14 アルシュを出発して、レフィディムに宿営したが、そこには、民の飲む水がなかった。	
K 民数記	33:15 彼らはレフィディムを出発して、シナイの荒れ野に宿営した。	

⑬シナイ山（ホレブ）／十戒授与

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 4 / 聖句等の総数 33250 <シナイ山>2個<ホレブ>2個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : シナイ山・ホレブ]
K 出エジプト記	19:20 主はシナイ山の頂に降り、モーセを山の頂に呼び寄せられたので、モーセは登って行った。	
K 出エジプト記	31:18 主はシナイ山でモーセと語り終えられたとき、二枚の掟の板、すなわち、神の指で記された石の板をモーセにお授けになった。	
K 申命記	1:2 <u>ホレブ</u> からセイルの山地を通して、カデシュ・バルネアまでは十一日の道のりである。 →ホレブはシナイ山のことで、「乾燥した地」の意味。シナイ山は、神が律法を民に授けた山で「聖なる山」とも呼ばれる。 カデシュ・バルネアはカデッシュとも呼ばれる、オアシスである。	
K 申命記	1:19 我々は神、主が命じられたとおり、ホレブをたち、あなたたちが見たあの広くて恐ろしい荒れ野を通り、アモリ人の山地に至る道を、カデシュ・バルネアまで来た。	

⑭ハツェロト

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 5 / 聖句等の総数 33250 <ハツェロト>6個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : ハツェロト]
K 民数記	11:35 民は、キプロト・ハタアワを旅立ち、ハツェロトに来た。彼らがハツェロトにいたとき、	
K 民数記	12:16 その後、 <u>民はハツェロトを出発し、パランの荒れ野に宿営した。</u>	
K 民数記	33:17 <u>キプロト・ハタアワを出発して、ハツェロトに宿営した。</u>	
K 民数記	33:18 彼らは <u>ハツェロトを出発して、リトマに宿営し、</u>	
K 申命記	1:1 モーセはイスラエルのすべての人にこれらの言葉を告げた。それは、ヨルダン川の東側にある荒れ野で、一方にパラン、他方にトフェル、ラバン、ハツェロト、ディ・ザハブがあるスフに近いアラバにおいてであった。	

⑮エツヨン・ゲベル

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 2 / 聖句等の総数 33250 <エツヨン・ゲベル>2個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : エツヨン・ゲベル]
K 民数記	33:35 アプロナを出発して、エツヨン・ゲベルに宿営し、	
K 民数記	33:36 <u>エツヨン・ゲベルを出発して、ツインの荒れ野、すなわちカデシュに宿営した。</u> →⑩カデシュ・バルネア	

【参考】ホル山

ホル山の位置は不明ですが、現在のヨルダンの世界遺産「ペトラ」にある Jabal Haroun (ジャバル・ハールーン) であると言われている。

→民数記 20 : 22～23、25、27、34 : 7、8、申命記 32 : 50、出エジプト記 14 : 2、9、33 : 7

→ホル山はエドム領との国境にあり、ここで、主はモーセとアロンに言われた (民数記 20 : 23)。

→モーセは主が命じられたとおりにした。彼らは、共同体全体の見守る中をホル山に登った (同 20 : 27)。

→彼らはカデシュを出発して、エドムの国の端にあるホル山に宿営した。祭司アロンは、主の命令によってホル山に登り、そこで死んだ。イスラエルの人々がエジプトの国を出て第四十年の第五の月の一日であった (同 33 : 37、38)。

→あなたは登って行くその山 (→ネボ山) で死に、先祖の列に加えられる。兄弟アロンがホル山で死に、先祖の列に加えられたように (申命記 32 : 50)。

⑩カデシュ・バルネア

	タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 5 / 聖句等の総数 33250 <カデシュ・バルネア>5個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: カデシュ・バルネア]
K	民数記	34:4 そこからアクラビムの坂を南に向かい、ツインを経て、カデシュ・バルネアの南に達する。そこから更に、ハツアル・アダル、アツモンを経、 →シナイ山出発後、イスラエルの民が長く宿営したオアシス	
K	申命記	1:2 ホレブからセイルの山地を通して、カデシュ・バルネアまでは十一日の道のりである。	
K	申命記	1:19 我々は神、主が命じられたとおり、ホレブをたち、あなたたちが見たあの広くて恐ろしい荒れ野を通り、アモリ人の山地に至る道を、カデシュ・バルネアまで来た。	
K	申命記	2:14 <u>カデシュ・バルネアを出発してからゼレド川を渡るまで、三十八年かかった。</u> その間に、主が彼らに誓われたとおり、前の世代の戦闘員は陣営に一人もいなくなった。	
K	申命記	9:23 主がカデシュ・バルネアからあなたたちを遣わし、「上って行って、わたしが与える土地を取りなさい」と言われたときも、あなたたちの神、主の命令に背き、主を信頼せず、その声に聞き従わなかった。	

⑪ツアルモナ

	タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 2 / 聖句等の総数 33250 <ツアルモナ>2個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: ツアルモナ]
K	民数記	33:41 イスラエルの人々はホル山を出発して、ツアルモナに宿営し、	
K	民数記	33:42 ツアルモナを出発して、プノンに宿営し、	

⑫ヨトバタ

	タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 2 / 聖句等の総数 33250 <ヨトバタ>2個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: ヨトバタ]
K	民数記	33:33 彼らはホル・ギドガドを出発して、ヨトバタに宿営し、	
K	民数記	33:34 ヨトバタを出発して、アプロナに宿営し、	

⑬ディボン

	タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 2 / 聖句等の総数 33250 <ディボン>2個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: ディボン]
K	民数記	33:45 イイエ・アバリムを出発して、ガドのディボンに宿営し、	
K	民数記	33:46 ガドのディボンを出発して、アルモン・ディブラタイムに宿営した。	

⑭ネボ山

	タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 2 / 聖句等の総数 33250 <ネボ山>2個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: ネボ山]
K	申命記	32:49 「エリコの向かいにあるモアブ領のアバリム山地のネボ山に登り、わたしがイスラエルの人々に所有地として与えるカナンの土地を見渡しなさい。	
K	申命記	34:1 モーセはモアブの平野からネボ山、すなわちエリコの向かいにあるピスガの山頂に登った。主はモーセに、すべての土地が見渡せるようにされた。ギリアドからダンまで、	

【参考】出エジプト(モーセ)の時期の考察 出エジプトの時期については、後期説と早期説がある。

▶後期説(BC1200年代):BC1290年

出エジプト記1:11

エジプト人はそこで、イスラエルの人々の上に強制労働の監督を置き、重労働を課して虐待した。イスラエルの人々はファラオ(エジプト王の称号、「大きな家」の意)の物資貯蔵の町、ピトムとラメセスを建設した。

ラメセスRameses=ペル・ラメセス(ラメセス市/ラメセスの家)

エジプト新王国第19王朝第3代のファラオ、ラムセス2世(Ramesses II、BC1314頃生～1224年、またはBC1302頃生～1212年、在位:BC1290～1224年、またはBC1279～1213/1212年)が、シリアで勢力を拡張するヒッタイト(BC15世紀頃アナトリア半島に王国を築いた民族)に対抗するために、エジプト第2中間期(BC1782頃～1570頃)、古代エジプトに登場した人々ヒクソスが拠点をついたエジプト東部の都市アヴァリスを元に、ペル・ラムセス(ラムセス市)を建設し、アジア方面への遠征のための軍事拠点とした。

▶早期説/前期説(BC1400年代):BC1446年(→聖書以外のデータと聖書の記述とが最もよく一致するとされる)

列王記上6:1

ソロモン王が主の神殿(=第一神殿=ソロモン神殿)の建築に着手したのは、**①**イスラエル人がエジプトの地を出てから四百八十年目、ソロモンが**②**イスラエルの王になってから四年目のジウの月、すなわち第二の月であった。

ソロモン(在位:BC970～931頃→諸説あり)→ソロモンの在位から、4年目(=BC966)から遡ること480年前は、BC1446年(ユダヤ方式:数えで計算)。



【参考】葦 reed

葦(あし、よし)は、水辺に生えるイネ科の多年草(高さ1～3m)で、沼や湖、川岸などに大群落を形成します。自然浄化作用を持ち、多くの生物のよりどころとなっているため、その価値が再評価されてきており、ヨシ原復元の事業が行われている地域もある。元々は「アシ」と呼ばれていましたが、縁起の悪い「悪し」に通じるのを嫌い、縁起の良い「よし」にちなんで「ヨシ」と呼ばれるようになった。

